

曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第七編

歌川國安画
上帙卷之上



傾城水滸傳第七編序

毎篇八号合本之上。快毎帙上下各二冊。

稗史の觀る所の勸懲と宗とされ彼水滸傳の如き然るに但
その巧なる何の稗史より右より左のこれれ惜る作者の意匠
よく勸懲の違ふを子孫暗啞の識ある今も二論の宋江花榮清
風山在の時計と秦明と降をいふ話説ハ二國志演義の孔明姜維と
降を計略と相類せるは宋江亦秦明を固く山寨の留人爲る昔亦容
府尹とてその妻子を殺さる遂に花榮が妹とて明の妻とての毒惡
不仁これより甚しむる又宋江が父宋太公宋江を見ず欲するの宋
清を偽り大公死せりと告むといふ話説ありの更非如き命を
とも宋清も亦その子とて兄を欺く父の死とて孝不悌亦その

より甚なる金聖歎が評論の宋江をのく奸賊とせるものなり
是等の爲のものは聖歎も亦諺を何とされ宋江が奸か否と
宣ふ奸なるれども宋朝の忠臣たんと庶幾か志始終相違ふや
玄女の冥助あるを素より黄巢朱全忠の類にあらず拙評す
盡くかゝるを又別書つけざるは傾城水滸傳の右の論へ
如き善惡を差別する趣向のめと然則に續易の聊勸懲を正
くは便是より戲謔までも虚せるの意之圖と風のの光陰に
小道とてともるべしめなるやあは畢竟これをも論する
我の巧拙批判の當否彼も一時之此も亦一時之哉

文政十二年己丑春正月吉新版 曲亭馬琴識

迅雷電
秦名



天見津山
黄葉

秋来ぬと風乃
たよりと門田
鷹より先よ



百歩
露を穿つ
的場柳ふ
三日月乃
新巻
壺



女の執
花の



あつたぬ

柳のうゑ

あや

あや

あや

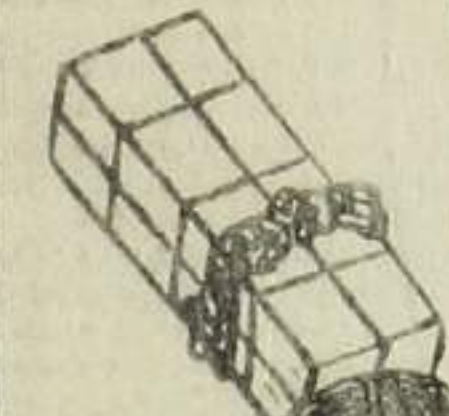
あや

あや

あや

あや

あや



達手模様

薄衣



あつたぬ

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

桐火桶

石竹

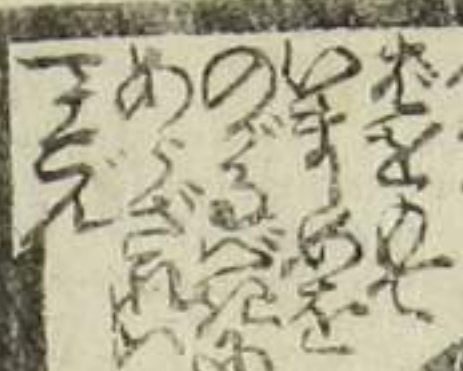


苗頃水

筒鳥



トじせいのひと



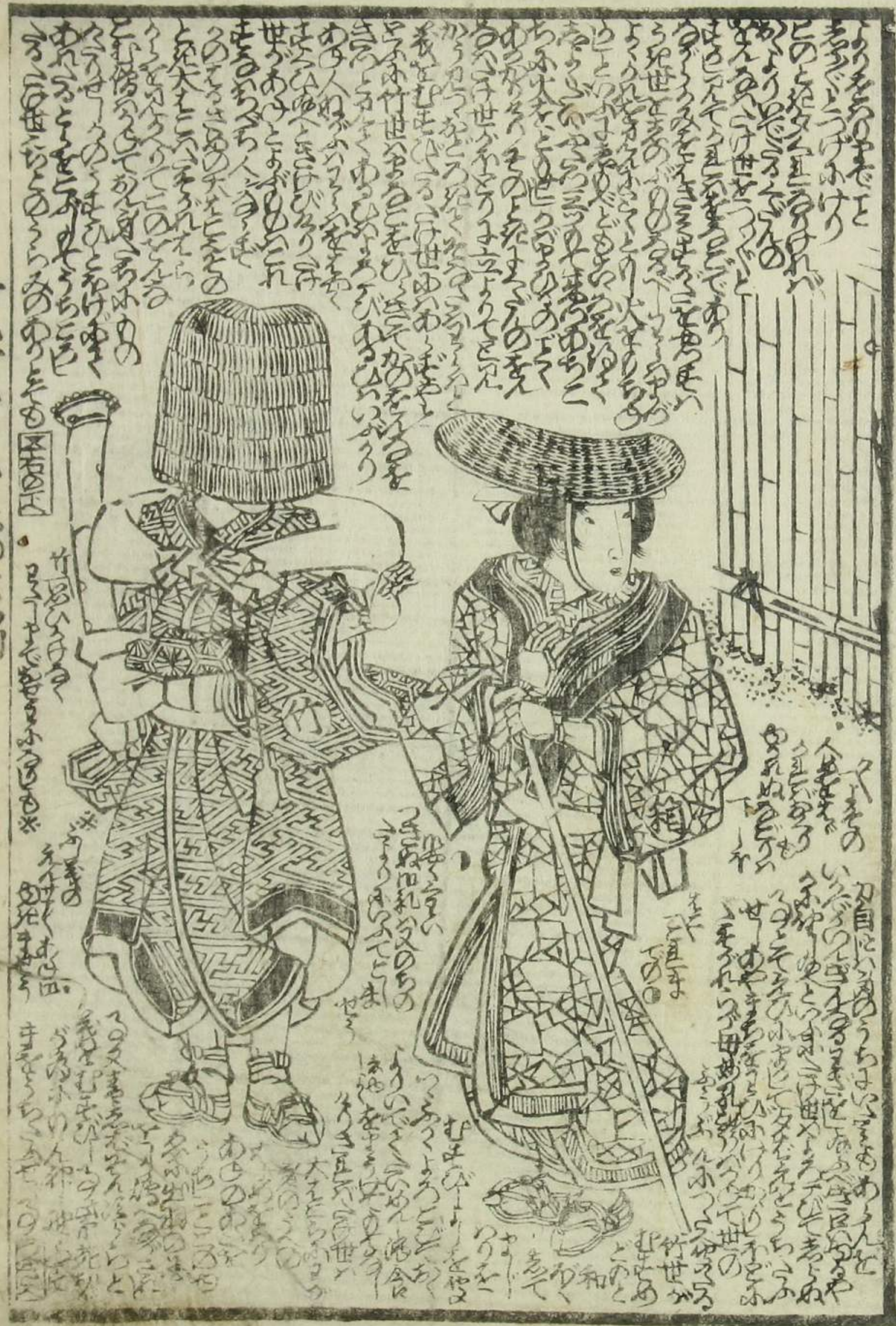
光之り
くさるゝ
あつちとひ
ふりわに
とをて
かき
この日
えがけ

[illegible]

家國萬人之主

半句はあつた
とておつた
本をさう
ゆゑの名を
映

[illegible]



[illegible]

初編五編止先達名實公案以曲亭馬琴作
六編七編八編子年秋實出廿六歌川國安画

初編五編迄通俗漢楚軍談を中は極方に
共二十冊出来ぬと云ふ事一絶を軍書なりと

廣くは名人の立者なりと豪傑
水滸傳にありて今も
ろくはるるるる画本あり

初編 大編 遠山東京山譯
共十二冊 賣出 歌川國芳 函

奉書二枚のき彩色すり
画面に以て嶺々奥のや
ありありと双六は二あり

初編
四冊
歌鶴
川屋
國南
貞址
画作

忠臣の義士は、豪傑
水滸傳の如く、
名文乃、
名文乃、

